

# Twenty-eight

上演台本

作／演出 入江おろば

エリー ダンサー  
メイ シンガー・ダンサー

ミーナ ボーカリスト（通行人）  
JJ MC・ダンサー

ホンミ 女性ダンサー（通行人）  
スルト 男性ダンサー

リラ 女性ダンサー（女係員）  
ジャダ 女性ダンサー。リラの妹

司会（声）  
テラ（声）

ハル 街工場で働くエリーの恋人（男係員・警官）

ロナルド 音楽プロデューサー

マスター ショー・ボール『Twenty-Eight』のオーナー。本名・テツ

## ○オープニング（Aステ、Bステ）

Aステージ脇にはイス2つに机（客席）がある。反対側にカウンター。カウンター上に電話機とキーボード。反対に小さめのBステージ。

時代、国が一見して分からない異空間。季節はオンタイム。

アップナーなチューンがかかる店内は、店員に扮した出演者が劇中の店そのままに、客入れを手伝う。

客入れが終わると、マスターがカウンター内に入り、ヒューマンビートBOXでショーのスタートを宣言。MCのJJがステージに現れる。

JJ

（PAP・仮歌詞）皆さま、ようこそショー・ホール『Twenty-Fight』へ！俺の名はJJ。このマザーシティーで一番ならしてるMC、歌って踊って喋っていいし、マイクパフォーマンスまじいい調子、心の扉あけっぱなし、あなたのノートに書き記し、ヤバイ薬に用はなし、テラに捧げる感嘆詞、飲んで笑って泣き腫らし、今夜のベッドで思い出し、ゲットするは明日のエナジー！（盛り上げて）

GO！GO！GO！GO！ イツ〜ツ……ショオertime！！

激しいダンスチューン（M1『Dancing!』）がかかり、

JJ

まずは『Twenty-Fight』のシートップ！ ミッドナイトクイーン、エリー！

弾けるように飛び出してきたエリー、ソロダンス。

JJ

ご機嫌なエンジェル、メイ！

メイのソロダンス。

JJ

WOW！ 乗ってきた乗ってきた、へい、ダンサー！

ダンサー達の白熱のダンス。

JJ

シュガーベイビー、ミーナ！

曲調が変わり、(M2)『We can go further』がかかると。

We are fed up with normal life.  
Don't you wanna see the new world?  
We can go further, Everything has just started.

Put on sunglasses start an engine. Let's get on our car!  
The handle is yours you can go wherever you want,  
Let's go and see over the horizon.

It's nothing without this song.  
Get rhythm and start dancing  
Come on we are ready, It's accelerating.

We are fed up with normal life.  
Don't you wanna see the new world?  
Because we can go further, Everything has just started.

We are fed up with normal life.  
Don't you wanna see the new world?  
Because we can go further, You've got the best partner,  
taking you to the place.

歌が終わると、シーナとJJ、ダンサーたちがはける。  
明かりが変わり (M3)『theme of 28』・徳丸版)を歌いながら出てくる。  
天使の格好をしたメイ。

涙がこぼれる 明日がみえなくて  
誰もがあきらめているけど 人は繰り返し進むの

雨は土に還り やがて この街にも降り注ぐ

あなたがわたしに教えてくれた 昨日は明日のためにあるじゃない  
痛む日々の中で ねえ I would like to sing for you. And thank you from now on.

曲終わり、暗転

① 閉店後のステージと楽屋（Aステ、Bステ、楽屋）

明転すると、客が帰った後の店内。楽屋が開いている。  
ダラダラするもの、ドリンクを飲むもの、汗をタオルで拭くもの、様々。  
天使の衣装を着ているメイ。頭の輪っかを乱暴に外す。

メイ あー、もう、なんコレ！？ そーとうざい！

JJ イライラすんなよ、メイ。けっこ似合ってるって。

メイ うっさい、このクソガキ！

JJ （十字を切って）オーマイジーザス。天使とは思えない発言、どうかお許しく  
ださい。

ミーナ （近づいてきて）メイ、お疲れ。

JJ ミーナ！ 今日も最高だったぜ、特に俺との――

ミーナ あんたに言っていないって。…なに怒ってるの？

メイ 怒つとらんし！ それよりエリーは？

ミーナ さあ。

メイ エリー！ エリー、どこにおるん！？

エリーを探しに楽屋に走るメイ。入れ違いに来るホンミ。

JJ むちゃくちゃ怒ってんじゃない。メイのあの訛り。

ミーナ うん。エリーが何かしたのかな。

ホンミ はい！

JJ お、ホンミ知ってる？

ホンミ ううくん、知らないです。

ミーナ …そう。

ホンミ メイさんって、どこの人なんですか？

JJ なんだっけ、あのほら、遠くの小さな島だよ、たしか――

マスター フース・アイランド。

外にあったA型看板を抱えたマスターが、足を軽く引きずりながら来る。

JJ あ、お疲れ様です。俺、持ちますよ。

マスター (渡して) 悪いね。

JJが看板をカウンター後ろに置く。  
「エリー!？」と遠くでメイの声。  
膝を気にしているマスター。

ホンミ マスター、膝大丈夫ですか？

マスター ええ大丈夫ですよ。空調がキツイとちよつとね。

ミーナ 反省会、やりましょうか？

マスター いえ、今夜はいいでしょう。お客さんの反応も良かった。(後上さして) エリーに客が来てたみたいだしね。

JJ あ、それで。さっきあの不機嫌エンジェルが当たり散らしながら、幼馴染を探してましたよ。

ホンミ メイさんとエリーさんで、出身同じなんですか？

ミーナ (真似して) 同じなんですよ。ホンミ、外でエリーの様子見てきて。

ホンミ はあいう。

マスター (周りに) それじゃ、みんなお疲れさん。

一同 お疲れ様です。

ホンミが出ていくと、マスターも楽屋に去っていく。  
JJ、ミーナと二人きりになったのを確認する。

JJ (咳払い) あー、ミーナ。

ミーナ なに？

JJ ちょっと話があるんだけど。明日ってー

ミーナ 話？ なに？

JJ え？ 話っていうか、相談っていうか…

ミーナ うん。

JJ (見つめられて) あー、俺さ。そのさ。なんかさ？

ミーナ ラップ？

JJ (焦って) いやいや、俺さ、その…好きな人ができたっていうか。

ミーナ へー。誰？ ホンミ？

JJ ちがうちがう。

ミーナ あ、メイなの？

JJ ちがうよ！ あんな暴力女。

ミーナ じゃ誰よ？

J J ええ！？ いまここで？  
ミーナ 面倒くさいなー。いいじゃん、誰、誰？  
J J わかったよ。ちよっと心の整理に時間を――  
ミーナ はい、言つて。さんはい。  
J J ――！！ それは…(おまえ)  
メイ エリー！！  
J J …が好きだ！

走ってきたメイが叫ぶ。

ミーナ (驚いて) そうなの！？  
J J (固まっている)。  
メイ どっかに隠れとるな。(ジロリ) そーとー、あつたまきた！

メイが走って出ていくと、暗転。

## ② 店の前 ニ人がげベンチ・夜 (Bステ)

ステージ衣装を着替え、歩いてきたエリーと作業着のハル。  
SE夜の雑踏。

エリー 仕事、はやく終わったんだ。  
ハル うん、今日は残業しなくていいってハリソンさんに言われて。  
エリー (心配して) なんかあったの？  
ハル その反対。いつも頑張ってるから、今日ぐらいは早く帰れつて。  
エリー 今日ぐらい？  
ハル (ごまかして) 凄かったよ、今日のステージ。キレッキレのエリーのダンス、みんな釘づけだよ。  
エリー ……そうかな。  
ハル 信じられないんだ。踊る君を見た後、こうして普通に話してるのが。  
エリー ……。  
ハル ……元気ないね。あ、疲れてる？  
エリー ねえハル。夢ってある？  
ハル 俺の夢は君の夢が叶うことだよ。  
エリー それは聞いた。嬉しいけど、答えになってないよ。あなたの夢をちゃんと聞かせて。

ハル 夢、か……。なんだろう、思いつかないよ。

エリー じゃあ、子供のころは？

ハル サッカー選手になりたかった。このマザーシティーはビッグクラブも多いからね。毎日壁相手にボールを蹴ってたなあ。でも、ユースに入る年になって、弟が産まれてさ。兄弟多くてお袋、大変だったし。クラブに入りたいてって言えなくて。

エリー あきらめたの？

ハル ……そうだね。

エリー 我慢したんだ。ハルは優しいから。

ハル エリーは何になりたかった？ やっぱりダンサー？

エリー うん。テレビで見た歌や踊りをメイと真似してね。毎日毎日、陽が暮れるまで夢中で踊ってた。

#### M4 インスト『この声届く、その日まで』

エリー ここと違って、フース・アイランドは何にもない島だから。でも、きれいな海と大きな空があつて。なんかね、うまく言えないけど、時間の流れが見えたんだ。漁師のおじさんは魚を獲つて、おじいちゃんたちは野菜をつくつて、お母さんは洗濯ものを干して。毎日その繰り返し。メイと一緒にいつも島中を走り回って、波の音に合わせて踊ったり、風に合わせて歌ったり。夜になると、テレビから流れる音楽に夢中になった。あの人の歌を聞いたのは、ちょうどそのぐらい。

ハル ……クイーンオブポップ、テラ。

#### SE 遠くで響くクラクション。

エリー ……そう。テラの歌は私たちの島まで、ううん世界中に届いてた。みんなテラに憧れて、テラになりたくて。だから私の夢は、少しでもテラに近づくこと。

ハル 近づいてるよ、間違いなく。今じゃエリーは『28』の顔なんだから。

エリー ……そのプレッシャーもあるの。『28』は昔流行った店、なんて言われてるの知ってるし。

ハル 言いたい奴には言わせておけばいいんだよ。エリーとメイがいれば、絶対この店は盛り上がっていく。

エリー ありがとう。

ハル 俺も頑張らなきゃ。実は……今日、主任になったんだ。

エリー え？

ハル ハリソンさんに呼ばれて、ネジ部門を任すって。

エリー すごい！ おめでとう！

ハル いや、そんな大げさな事じゃ。

エリー 主任になったら、まず何するの？

ハル そうだね、工場のシステムを変えたい。技術のある奴は、同じ班に縛り付けな

いで、いろんな分野を経験させた方がいいと思うんだ。ただネジを作るだけだ  
けど、考えることが人と違う奴はいて……あ、ごめん。

エリー 何が？

ハル いや、つまらないこと、ベラベラ喋って――

ホンミが「エリーさくん」と言いながらやって来る。

エリー ホンミ。

ホンミ メイさんが、なんか探してましたよ。

### ③ 閉店後のステージと楽屋（Aステ）

着替えたメイが客席に座り、JJとミーナ、スルトの振りを見ている。

ミーナ 5、6、7、8、1、2、3、4――

メイ そこ！ ずれてる！

ビクツとするJJ。

メイ （立ち上がり）こうじゃなくて、こう。さんのーがーはい！

カウントするメイに合わせて踊るJJ。

メイ そこ！！ やけん違うって！！（スルトの体を掴んで）こうやって、こう！

スルト いてっ、痛いって！

メイ 痛くないっ！ 次、ミーナ、ハイやって！

ビビりながらカウントに合わせて踊るミーナ。

メイ ……そこ！！

ビクビクツとするミーナ。目を閉じて止まる。

メイ いいね。

スルト ええ？

JJ まじで？

ホンミ あ、メイさーん。

メイ エリー！

ホンミがエリーを連れてくる。

メイ、エリーを見つめるや、怖い形相で突進。

メイ 今日のステージはなに！？

エリー メイ、ちよつと落ち着いて。

メイ あたしは落ち着いてると、今までなんしよった！？

エリー それは…。

ホンミ 男の人と話してました。

JJ (小声で) あいたー。

ミーナ (慌てて) ちよつとホンミ、あ、スルトもあっち行こうか。

ホンミ なんて？

スルト いいから、楽屋にお菓子あったぞ。

ホンミ いく。

スルト、ホンミを連れて楽屋へ。

客席に座ったエリー。イライラしながらメイも座る。

メイ エリー、男となんしよった？

エリー なに怒ってるの？ 私が何かした？

メイ 呆れた、そーとー呆れた。今日のステージで納得がいったんだ。そう、それならいいや。

エリー 私の振りが気に入らないの？ それとも踊り？ お客さん、満足してたじゃない。

メイ はあ！？ あんたはそんなんで満足！？ 歌って踊れば、こんな小さなステージでも満足なん！？

エリー そんな言い方——

メイ 現実やし！

JJ、メイを止める。

JJ  
メイ、やめろ！

ミーナ  
あたしたち仲間でしょ！？

メイ  
あたしは時間がないの！ 本当なら、もうとっくに売れてなきやなんない。なんのために、ここまで来たん？ 親の大反対押し切って、「絶対売れる」って家出同然に飛び出して、もう十年。十年よ！？ 5年でデビューして、7年でブレイクしとるはずなのに。なんこれ？ なんなの、この状況？ 信じられん！

エリー  
……。

一同  
……。

沈黙。

まくしたてると座るメイ。気まずさに煙草に火を付けるエリー。

メイ  
……こつち出てきて十年、一度も島に帰ってない。手紙も書いてない。住所も

エリー  
電話番号も知らせてない。……エリー、島出た日のこと覚えてる？

エリー  
……うん。

メイ  
あんたのいどこに漁船だしてもらって。二人でトランク一つ持って、深夜の雨の港、あたしとあんた以外に誰もいなかった。そんな時決めたの。港に島の人全員があたしを出迎えてくれるようになるまで、島には絶対帰らないって。テラみたいになれるまで、ふるさとは捨てようって。

エリー  
……。

メイ  
こんなのあたしじゃない。あたしは売れなきゃいけないの。その実力はある。

エリー  
だったら、売れるためのステツプを登りたい。この店が評判にならなきゃ、誰もあたしに気付かんけん。足踏みなんかしてる暇ない！！

エリー  
なんて！？

煙草を乱暴に灰皿に押し付けるエリー。

エリー  
『28』が足踏みだっっていうの！？

メイ  
あんたは前に進みたくないんか！？ あたしもあんたももう二十八。時間は見えんし。こうしてる間もどんどん流れてく！ それが、まだ分かんないの！？

エリー  
分かってる！ 私だって考えてるし、ずっと悩んでる。苦しい気持ちは同じだけど、自分を信じて今は我慢してる。ここにいるみんなそう。でも、あんたは

メイ  
どう？ 人のせいや店のせいにして、文句を言ってるだけじゃない！

メイ  
なんちい！

睨みあうエリーとメイ。

ハラハラしているミーナ。

ミーナ (小声で) JJ、ちょっとなんとかしなさいよ。

JJ (小声で) ええ？

JJ、空気を変えようと、突然ラップをはじめ。

JJ ヘイヘイヘイ、ガールズ、LOOK AT ME NOW ヘイヘイ、これは塀。

一同 ……………。

JJ あれ？

エリー&メイ うるさいっ！！

メイに殴られ、エリーに蹴られたJJ、吹っ飛ぶ。

二人、別々の方向へ出ていく。

ミーナ …JJ。

JJ (手を差し伸べられたと思い) ミ、ミーナ。

ミーナ …(額をたたいて) そりゃ、ぶっ飛ばされるわ。

#### ④ ワールドアイドルオーディション受付 (Bステ) 日替わり

Bステに長机、マスクをした男女の係員 (スーツに腕章) が現れる。

参加希望者数人 (マスク) が用紙を貰いに来る。

男係員 はい、「ワールドアイドルオーディション」の参加希望の方は、こちらで申し込

み用紙をもらって、必要事項を記入したうえで、奥の部屋で登録料をお支払い  
ください。それで手続きは終了です。スペーステレビ「ワールドアイドルオ  
ーディション」に参加したい方は

そこへカバンを背負ってきたメイが来る。

受験者は礼して去っていき、並んだメイが用紙を貰う。

女係員 はい、こちらどうぞ。

メイ …登録料って、なんそれ！？ 誰でも参加できるのがウリのオーディション番

組でしょ！？　　ってか、たっか！！

女係員　申し訳ありませんが他の希望者の方のご迷惑になりますので……。

メイ　迷惑？　　あたしは質問してるだけでしょ、誰に迷惑かけてるって？

男係員　どうしました？

女係員　こちらの方が、登録料が高いとクレームを。

メイ　なん、その言い方！

男係員　お客様、あなたもご存知でしょう。「ワールドアイドルオーディション」から、

何人もスターが生まれたこと。準決勝のテレビ中継は40パーセントを超える

番組ですよ。そりゃ、誰でも出たい。ですから――

メイ　商売にしてるじゃん。

男係員　……あんたねえ……わかった、もう帰んな。金のない奴は宝くじも買う資格がな

いんだよ。どうせ当たらないんだから、その金大事にした方がいい。

メイ　あたしはあきらめんよ！

ロナルド　どうした？

プロデューサーのロナルドが通りかかる。

女係員　（驚いて）プロデューサー！

ロナルド　（メイを見つめて）……登録料を払いたくないと。

メイ　（頷いて）誰でも参加できるって聞いたから。

ロナルド　それは嘘ではない。だが、うちの番組は、優勝者はもちろん、視聴者にインパクトを残せばレコード会社や大手芸能事務所からオファーが殺到する。そんなチャンスはなかなかない。去年は10万人近くの応募があった。登録フリーにしたら、こちらの手に負えない数字になる。必然、レベルも下がる。

メイ　記念受験はお断りってことやる。

男係員　お前、プロデューサーになんて口の利き――

ロナルド　（制して）鋭いな。しかし、そこまで分かかっていてなぜ食い下がる？

メイ　あたしは、十億人から一人に選ばれる自信がある。

自信満々にフェイクを聞かせるメイ。

驚く係員たち。

ロナルド　……。

メイ　しびれて動けなくなった？

ロナルド　……なるほど。

メイ　あたしを出さないと後悔するよ！

ロナルド ああ、ここで話せて良かった。

メイ そやる！？

ロナルド お互いに大切な時間を無駄にせず済んだからな。(女係員に)君。

女係員 はい。

ロナルド お引き取り願って。

メイ はあ！？

女係員 さ。

女係員に追い払われながら、

メイ あんたの顔、覚えちよっけな。いつか歯にモノ見せてやるけん！！  
ロナルド 目にモノだ。

去っていくロナルド。追い立てられるメイ。

### ○路上・屋(Aステ)(差し込み11・A)

ミーナ デビュー？

ジャダ よく分かんないけど。歩いてたら、声かけられて。

JJ スゲーじゃん。

スルト ちよつと待てよ、それ、怪しくないか？

ミーナ ね、ジャダ。詳しくは聞いたの？

ジャダ (首を振って) ううん。なんか、声かけられて。

スルト だから、それじゃ分かんねって。

ミーナ どんな人？

ジャダ 声かけそうな人。

スルト 分かんねーよ！

ジャダ だって、こう、普通に歩くじゃない？(歩く)

JJ (サングラスして) おーい！

ジャダ (振り向く) はい？

ミーナ 確かに、声かけそうだわ。

スルト うん。黒い。

JJ デビューしないか？

ジャダ する！

JJ 決まりだ。(固く握手するJJとジャダ)

ミーナ 決まっちゃ、ダメよ！

JJ　で、ちょっと電車代貸してくんない？  
ジャダ　いくら？  
スルト　（呆れて）ジャダ、お前、リラには話したのか？  
ミーナ　そうよ。しっかりもののお姉さんに、まず相談するでしょ。  
リラ　（走ってきて）大変大変！　あたし、デビューすることになった！

一同、顔を見合わせ「……………」

リラ　どしたの？

スルト　リラ、その野郎、どこにいる？

リラ　向こうの25番街。

ミーナ　JJ、つかまえて！

JJ　おう、まかせろ！

全員Bステ奥へ走ってはける。

M5『theme of 28』（オケ・nako版）が先行して。

## ⑤ 休日のお店（Aステ）

音楽に合わせて一人踊っているエリー。

真剣な表情、飛び散る汗。

そこへハルが現れる。踊っているエリーに見入る。

途中、エリーが気付くが最後まで踊りきる。音楽をとめて、

エリー　ハル、どうしたの？

ハル　アパートに行ったら、鍵がかかってたから。看板出てないけど、今日はお店休み？

エリー　そう。毎年7月28日は臨時休業。

ハル　へえ。じゃ自主練？

エリー　メイにダメ出しされないようにね（苦笑）。

汗を拭きながら客席に座るエリー。

エリー　ハルも久しぶりのお休みじゃない。どしたの？

ハル　いま見てて思ったよ。エリーは本当にダンスが好きなんだね。踊ってる時って何か考えてる？

エリー 何も。体を動かすこと、感情を表現すること、それしかないよ。わたしは器用な方じゃないし。

ハル そうかな、俺からしてみたら、すごい器用だよ。こうだっけ？

エリーの振りを実似してみるハルだが、不恰好。

エリー (笑いながら) 違うよ、こう。

ハル こうでしょ？

エリー 全然ちがうって。

楽しそうな二人。

と、急に真剣な表情を見せるハル。

ハル エリー、この間、俺の今の夢を聞いたよね？

エリー え？

あれからずっと考えてたんだ。それで答えが見つかった。

エリー (向き直って) なに？

ハル はじめて君のステージを観たときから、変わってない。俺の夢は、ずっとエリーの応援をすること。一番近くで。

エリー ……。

ハル エリー、俺と結婚して欲しい。

エリー !!!!!!!ハル、わたしはいま——

ハル 分かっている。いま、君が目指しているものも知っている。だから待つよ。君が答えを出すまで、ずっと。

エリー ……。

ハル それを言いに来たんだ。じゃあ、練習の邪魔しちゃ悪いから、帰るよ。

エリー …ハル。

ハル うん？

エリー …なんでもない。それじゃ。

ハル それじゃ。

振り向いたエリーを今度はハルが呼び止める。

ハル エリー。

エリー ?

ハル この前、サッカーのユースチームに入らなかった話、したよね。

エリー ええ。

ハル 君は「あきらめたの？」って聞いて「そうだね」って答えた。でも、あれは間違いだ。あきらめたんじゃない、「選んだ」んだ。

エリー 選んだ？

ハル 選ぶことは勇気がいる。俺が人生で最初に選んだのは、家庭の事情でサッカーへの夢をあきらめること。そこから始まって、たくさんあきらめてきた。大学へ行くことだって。だから知ってるんだ。「あきらめない」と、「あきらめられない」のは違う。

エリー どういうこと？

ハル 俺は君をあきらめない。それはもう決めたんだ。

ハル、出ていく。

エリー ……ありがとう。

見送ったエリーはイスに座ると、考え込む。

やがて『theme of 28』をハミングし始める。

その脳裏に、はじめてマザーシテイに来た日のメイの声が聞こえてくる。

メイの声 エリー、あそこ見て！ たっかいビル、何階あるんやろ。いっちゃん上に住んでる人、階段の上り下り、大変やるねー。

メイの声 信じられる？ あたしら今マザーシテイにおるんよ。カフェでお茶して、ウインドーショッピングして、スクランブル交差点で信号待ってるんよ。あ、あれ立体駐車場！？ あんた見たことあった？

メイの声 いいエリー。都会は誘惑が多いからね。あたしらはあたしらのルールを作ろう。うまい話は信じない。男の言葉は信じない。信じるのはお互いのことだけにす。はい、復唱！ なん？ 語呂が悪い？

エリー ……メイ。

エリー、ウトウトと眠りに入る。

### 夢回想

メイが楽譜ノートを持ってきて、ピアノ（または客席）に座る。

メイ 『theme of 28』を作曲しながら）エリーの書く詞、きれいだね。どっかテラの匂いがして、あたし好きだな。

エリー ……メイ？

メイ やったよ、エリー！ 『Twenty-Eight』合格だって！！ あたしたち二人だけ！  
あたしらが作った歌が認められたんだよ。テラが生まれた店で、あたしたちテ  
ラが歌った同じステージに立てる——やったー！

抱き合う二人。

エリー メイ、良かったね。おめでとう、本当におめでとう！

突然、突き放すメイ。

エリー ？

メイ あんたが行かんなら、あたし一人でマザーシティーに行く。

エリー 行かないなんて言っていないよ。ちゃんと両親を説得してからでも、遅くないん  
じゃないっかって。ね、マザーシティーはどこにも行かないよ。

メイ ……あんただけは、あんただけは分かってくれるって思ってたのに！

メイ、走ってはける。エリーはフラフラとイスに座りまた眠りにつく。

#### 夢回想終わり

Bステにマスターが足を引きずりながら入ってくる。

膝を気にしながら、カウンターへ。

扉があくと、SE雨の音。

濡れた傘をはたき、ロナルドが入ってくる。

ロナルドの声 ……入るぞ。

マスター どうぞ。

起きたエリー、ロナルドに会釈すると楽屋へ。

ロナルド (見回して) まだやってたのか。

マスター ……ええ。

ロナルド 懐かしい、とは言わん。

マスター ……。

ロナルド (傘を振って) テラが死んで、もう二十年か。あの日も強い夕立がきた。

マスター …ええ。

ロナルド 今日は、休みか？

マスター …毎年。

ロナルド ……。

ロナルドはAステに向かう。後を歩くマスター。

エリー、慌てて楽屋へ隠れる。

ロナルド ここで俺はテラを見つけて、そして失った。テラはパーフェクトだった。人生をかけられるアーティストに出会うなんて、奇跡としか言いようがない。テラがいたから、俺はプロデューサーになった。いや、なれたんだ。陳腐な言葉だが、夢、希望、野心、すべて掴みかけて、一瞬にしてこの手から零れ落ちちまった。

振り返り、

ロナルド だが、一介のプロデューサーの浮き沈みなんかちっぽけな話だ。どうでもいい。そんなことより大事なのはテラだ。テラの歌は人の希望だった。あいつの貧しい生い立ちのせいなのかは分からん。それは評論家が勝手に言ってることだ。だが一つ分かることがある。あいつは世界中の人に向けて歌ってなんかいなかった。テラはいつも誰か一人のために歌っていた。苦労して自分を育ててくれた母親、同じ夢を目指す友達、その時恋をしている人、名もない近くの人間を強く想っていた。それが国をこえて聴く人々の心を打つ力を持ったんだ。テラの歌には、世の中を優しく変える力があつた。……それを俺たちは失った！

マスターに掴みかかり、

ロナルド お前のせいぞろい！

マスター ……。

ロナルド あいつは苦しんでいた。バックダンサーのお前との仲を周りから責められ、悩んで傷ついて自分を責めて、……ついに自分で死を選んだ。違うか！？

マスターを投げ倒すロナルド。

よろけながら、立ち上がるマスター。ポツポツと語り出す。

マスター …違う。

ロナルド なに？

マスター 俺たちは真剣だった。テラはすべて捨てても俺と二人で生きていくと言ってくれた。だけど、俺たちはまだガキで……。テラが売れだしてから、知らない人間がたくさん近づいてきた。

ロナルド ……。

マスター 俺はダンサーを外され、テラに会うことを禁止された。親や親戚に金を握らせて、奴らは引き離そうとした。だけど、テラは最後まで俺のことを信じてくれた。

ロナルド ……なんだと。

マスター ……あの日、二十年前の今日。たしか今ぐらいの時間、突然、夕立が降ってきた。

SE 雨の音、SE 雷鳴

SE 公衆電話の着信音 SE 受話器を取る音

テラの声 ……(泣き声) テツ？ ごめんね。私もう頑張れない。テツに会えなくても我慢できる。あなたを信じているから。だけど、もう耐えられない。このお腹の子だけは何かあっても守るつもりだった……。それなのに……。テツに申し訳ない。弱い私を許して、テツ、ごめんね……。今までありがとう。

マスターの声 テラ！？

テラの声 ……さようなら。

SE ツーツー

マスターの声 テラ？ おいテラ！ テラー！！？

SE 雨の音が強くなる。

ロナルド ……テラに子供が？

マスター (頷く) その時はじめて(知りました)。おそらく、誰かに薬なんかで…。

ロナルド ……そんな――。

マスター ロナルドさん、俺の気持ちは本気でした。あの頃も、今でも。

ロナルド ……。

M 6 『亡き恋人への想い』

激痛に耐え、彼女への想いを踊りで表現するマスター。

踊り終わると膝を押さえてうずくまってしまふ。

エリーは、驚きと感動で隠れているのを忘れて出てくる。

ロナルド …雨もやんだみたいだ。来週のショー、一席取っておいてくれ。

傘を持って出ていくロナルド。

## ⑥ 公園（Bステ）

あぐらをかいて座っているメイ。JJ、スルト。

前にはビニールシートがひかれ、様々な種類の草が並んでいる。

マスクをした通行人1が逃げるように避けていく。

メイ あい、らっさいらっさい、安いよ安いよ。お客さん、ちょっと見てかない？

（逃げられて）チッ！ なん、高そうな服着てるくせに、ケチっちなー。

スルト ケチツチ？

JJ しょうがないんじゃないの？ こんな買う人、あんまみたことないし。

メイ なん？ 八百屋にもスーパーにも売つとうし。

JJ それは野菜だろ？ これ、その辺に生える——

メイ あ、らっしやい！

マスクをした通行人2が足をとめて不思議そうに眺めている。

女通行人 これ、何ですか？

メイ 草！

女通行人 ですよね……じゃ。

通行人2、首をかしげながら去っていく。

メイ あ、ちよつと！ ……冷やかしい多いなー。

JJ メイ、もうやめようよ。売れっこないって。

メイ うるさい、あたしは金があるの。あのいけすかんプロデューサー、バフィンって  
言わせたる。

スルト ギヤフンだろ。

メイ そう言ったし。あんたら、商品の仕入れ行ってき。新鮮なやつね！

JJ へーい。

メイ らっさいらっさいー！ お、お兄さん！

JJとスルト、少し離れたところで這いつくばって雑草を探す。

スルト　なあJJ、ちょっと思ったんだけど。

JJ　なんだよ？

スルト　メイって少しさ、頭わー

JJ　シッ！

スルト　？

JJ　（小声で）奴は怖ろしいぐらい耳がいい。とくに悪口にー

メイ　（近づいてきて）なん？

JJ　お、これはいい草だな、スルト。

スルト　お、おー。いいね！

手に持った、長くて固めな草をJJの頭に置くメイ。

メイ　悪口に、なん？

JJ　なん、なん、南京錠。

スルト　あ、あつちに大量の草が。取ってまいります！

走って逃げるスルト。

JJ　あ、おいっ！…きたねー。

メイ　（立たせて）あんた、金ないってウチに転がりこんだ時のこと、忘れた？

JJ　忘れてません！

メイ　腹減ったらサイダーで腹ふくらましてるの、可哀相やけん、シチュー作ってや  
ったよね。

JJ　草入ってるやつ。

メイ　なんちかんち言うな、しばくよ！

JJ　いや本当のことを正確にー

メイ　この恩知らずが！（しばく）

JJ　はい、生きててすみません！

スルトが警官と鉢合わせて、戻ってくる。

スルト　やばいつ、あつちに警察がつ！

慌てる三人。

「ヤバ、パクられる?」「隠そう!」「ああ来た」等あって、

警官 草むしり、御苦労様です。

にこやかに去っていく警官を唾然と見送る三人。

### ⑦ その後のお店 (Aステ)

客席に座るマスターの膝にタオルを巻くエリー。

M 6

エリー 取りあえずよく冷やして、病院に行きましょう。

マスター ありがとう、もう大丈夫だよ。

エリー …無理しないでくださいね。

マスター ああ。

エリー ……。

音楽だけが小さく響く、静かな空間。

マスター エリー、何か聞きたそうな顔だね。

エリー ……。

マスター 昔話だよ。二十年も前だ。

エリー 聞きたいです。

マスター この店の名前、おかしいと思ったこと、ないか?

エリー え?

マスター 二十七番街にあるのに、店名は『Twenty-Eight』だ。

エリー あ…。

マスター 俺がダンサーでこの店に入ったときは『Twenty-Seven』だった。そこで、テラと出会った。だけど彼女は二十七歳で帰らぬ人となった。

エリー …憶えています。メイと二人、一日中泣いてた。

マスター (頷いて) 怪我をした俺は方々に金を借りて、この店を買った。それで名前を『Twenty-Eight』にした。

エリー …どうですか?

マスター テラが二十八になれるように。いつでも帰って来られるように。

エリー ……!

マスター 二十年、短くて長かった。ずいぶん老いぼれちまった。  
エリー そんなことー

マスター ロナルドさんは、気鋭の若手プロデューサーだった。テラの歌に惚れこんでデビューのキツカケを作ってくれた人だ。あの人には恩も義理もあるんだが、あれ以来ずっと……。都合のいい奴だと思われてるだろう。エリー、お前いくつになった？

エリー 二十……八です。

マスター メイも同じだな。

エリー (頷く)

マスター (立ち上がり) ここひと月の君たちのショーを観ていて、記憶が蘇るんだ。踊りながら見たテラの表情、舞い飛ぶ汗のしぶき……。二十年で、君らというアーティストが育ってきた。それでロナルドさんに連絡した。彼は今『ワールドアイドルオーディション』のプロデューサーをやってる。あの人なら、君ら二人をどう見るかと思ってるな。

エリー 来週のショー、席を取ってくれって。

マスター 頭のいい人だから、全部分かってる。もし、彼の目に留まれば――。

エリー すごい！

Mカットアウト

SE電話の着信音

エリーが急いで楽屋に行き、電話を取る。

エリー ……はい、『Twenty-Eight』……え……私はエリーです、はい、はいすぐに知らせます！

### ⑧ 夕方の公園 (Bステ)

腹式呼吸、発声練習をしているメイ。

そこへミーナが来る。

ミーナの声 メーイ！

メイ ミーナ、ここ、ここ！

ミーナ どう？ フリーマーケット上手くいった？

メイ (首振って) あいつらそーとー使えん。根性がないんね。やっぱ男はダメ。

ミーナ あの二人じゃねえ。ところで何売ってたの？

メイ 草！

ミーナ え？

メイ それより、オーデイションの課題曲、手に入った？

ミーナ (頷いて) はい、これ。

カバンから楽譜を取り出すミーナ。

メイ ありがとう！ 確かしたミーナ！ 持つべきものは、お嬢の友達！ 今度シチ

ューご馳走するけん、家に来てね！

ミーナ やった、シチュー大好き！

さっそく譜面を読み込むメイ。

メイ なんなん……ふんふん……。

ミーナ メイ、私これからJJと食事するけど、いっしょにどう？

メイ (生返事) うーんうん、♪(ハミング)

ミーナ ……じゃ、行ってくるね。Bye!

ミーナ、去っていく。

『M A R I A』をアカペラで歌いながら踊るメイ。

血相を変えたエリーが走ってくる。

エリー メイ、ここにいたの!!

メイ なん? なんの用?

エリー メイ、落ち着いて聞いて。おばさんが…メイのお母さんが倒れたって。

メイ え?

エリー 島の病院じゃ分からないから、船で街まで……。いま店に電話があつて。うちの

親から番号聞いたって。

メイ ……そう。

エリー そうって、心配じゃないの?

メイ ……。

エリー 行かなくていいの、どんな容態かわからないんだよ?

メイ ……。

エリー メイ!?

メイ あたしに、どうしろって言うんよ! ここにいたら……なんもできんやろ!

エリー ……。

メイ 帰るわけには行かんし、あたしにはなんもできん。

エリー そんな言い方——  
メイ それに！ あたしが行ったって、誰も喜ばんし。もう、娘とも思われてないけん、あんたもほつといてっ！

立ち去ろうとするメイ。

エリー 待って！

つかむエリー。

メイ はなして！

パシーン！ メイの頬に思いっきり平手打ちする。

メイ ……いった……このっ——

エリー 娘と思っでないなら、なんでこっそりショーを観に来るの！？ あたしらが載ってる小さな新聞記事のスクラップ集めて、島の人たちに見せたりする！？

メイ ……！？  
エリー おばさんもおじさんも、メイのこといつも心配してる。あんたはこんな時でも心配にならないの？

メイ ……。

エリー ねえ、メイ！？

体の力が抜けるメイ。

M7インスタ『Hold on…』がかかる。

メイ ……ママが？

エリー (頷く)。

メイ ……嘘…

エリー 嘘じゃない。

メイ ……そんなこと、言われても……。

ふらふらと歩くメイ。

メイ (立ち止まり) ……エリー。

エリー なに？

メイ …あたしママに謝りたい。顔も見せないで、手紙も書かないでごめんなさいって、謝りたい。勝手に飛び出してごめんなさいって……会いたい、ママに会いたい……、いまずぐ会いたいよ……。

泣き崩れるメイの肩を優しく抱くエリー。

徐々に明かりが落ちる。

暗転

### ⑨ お店（Aステ・楽屋） 日替わり

客席やステージで、ミーナ、JJ、スルト、ホンミらが新しいショーの構成を考えている。JJはノートにペンを走らせる。

JJ …えーと、それでミーナの歌が入って……

スルト Bステにエリーを置いて、俺らでバックを踊るか？

JJ うーん、ここはソロステージにしないか。なあ、ミーナ？

ミーナ ……できるかな、私。

スルト 大丈夫。振りは俺とエリーでつけるから。

ミーナ うん、お願い。

JJ よーし、それじゃ次だ。

ホンミ あたしく、ガンガン踊りたいです。

スルト ホンミ、楽屋にお菓子あったぞ。

ホンミ いま大事な打ち合わせしてるから、我慢する。

ミーナ えらいね、ホンミ。

エリー みんな、お疲れ。

エリーが来る。

JJ エリー、メイの様子は？

エリー 病院に電話が通じなくて、かなり取り乱してる。ショーはメイ抜きで考えよう。

ミーナの歌を中心にして、みんなで盛り立てるの。

JJ ああ。

エリー さあ、もう数日しかない。気合い入れて、最高のショーを見せよう！

一同 おお！

JJに煙草を薦められるが、首を振って断るエリー。  
それぞれ、ダンスの振りをつけたり、衣装を取りに楽屋に行ったり。  
客席でノートに構成を書くエリーの隣に座るマスター。

マスター 大丈夫。

エリー え？

マスター *Birds in their little nests agree*「小さな巢の鳥は仲が良い」。ほら、見てらん。

協力しあい、いきいきとしたメンバーたちの動き。  
微笑むエリー。

スルト エリー、ちょっと来てくれ！

エリー (立ち上がり) うん！

ブルー暗転

SEショー前の店のザワザワ

ロナルドが入ってきて、マスターの待つ客席に座る。

## ⑩ ショータイム(Aステ・Bステ)一週間後

シーナがM∞『I still love you』を歌う。

Lonely in my room. i still can't throw away your cigarette.

Our promises stay in here.

I was truly in love with you.

Time goes by without telling you anything in my mind.

I know your holiday in sunday, so I have been waiting your call  
every... every week.

### 【おまけ】

I still love you thats the only thing I want to tell you.

I wanna tell you, even if you would not here it.

Hope my place is still in your heart.

I don't wish for anything else,

If allowed , Let me tell you.

続けて M∞『Daring』

A while ago, I was not able to understand you.  
And it was troubled all the time and very hated.  
It always "complained."

言いたくない 口から吐き出す 言葉にはならない 鈍い痛み  
No! Someone should stop me.

(In train) 降り (make up) 映る私を あなた 見たら  
Never talk to me.

I think of you. 時のあなたを違つて目をこして  
私は 一人怯えていた  
Didn't it know? 幼い日々は あなたの笑顔 見つめていたのになぜ…

(メー登場)

A while ago, I was not able to understand you.  
And it was troubled all the time and very hated.  
It always "complained."

迷ひなれなれ "ユリヤ" 井きつしよ 世の裏わ井り  
It is well alike. No! But it is unavoidable.

(Woo) 目を閉じたい 聴かせてくる あなたの歌の melody  
嵐の夜 悪夢の朝 包まれた温もり

I think of you. 今ならわかるあなたの強さ弱さも 同じ女になって  
Time goes by.

命は繋ぐ 時を超えて巡り巡る永久(とわ)に続く波の満ち引き  
You don, t say. 恋をこしています 聞きたいことが たくさんひきこしまつてどうです  
I love you. 夢も涙も 償う罪も 話したい あなたと My darling

曲が終わると暗転。

### ⑩ 閉店後 (楽屋・Aステ)

客席には誰もいない。

楽屋には、本番が終わって解放感があるメンバーたち（エリーはいない）。  
マスターが来て、Aステに上がる。

マスター みんな、お疲れ様。  
一同 お疲れ様です！  
マスター ちよつと集まってくれるかな。

弛緩した空気に緊張が走る。全員小走りにマスターを中心に集まる。

JJ あれ、エリーは？  
エリー ごめんなさい！

遅れてエリーが走ってきてBステへ。

マスター 知ってる人もいると思うけど、今日のショーには『ワールドアイドルオーディション』のプロデューサーが観に来ていた。テレビ中継が入る準決勝から、一人推薦で出してくれるそうだ。

一同、ざわざわした後、マスターの咳払いで静寂する。  
緊張の一瞬。

マスター JJ。  
JJ ?……えええっ!!?  
マスター なんてお前が緊張してんだ？

ずっこけるJJ。

マスター メイ、お前だ。  
メイ マジっスか!?!  
スルト やったな、メイ!  
ミーナ きつと、お母さんも見てくれるよ！

拍手するメンバーたち。

メイ ありがとう、みんなありがとう！ あたし、頑張る、必死で頑張る!!

優しく微笑んで手を叩くエリー。  
やがてエリーだけに明かりが当たり、他は全員はけていく。

## ⑫ 通り（Bステ・夜）

そこへ、仕事終わりのハルが来る。

ハル エリー、どうだった？

エリー うん、駄目だった。メイが選ばれたよ。

ハル ……そっか。半分残念、半分うれしい…ってところ？

エリー そ。私の半分。そういえばね、小さいころ隣のナミおばちゃんがよくケーキを焼いてくれたの。こんぐらいのスポンジをメイと二人で半分コして。それから、ずっと何でも半分。辛いこともうれしいことも、半分コしてきた。

ハル メイ、目立つといいね。

エリー 目立つよ、あの子は。強引にでも。

ハル 間違いないね、それだけは。

笑い合う二人。

手を出すハル。それを笑顔で握るエリー。

手をつないで帰っていく。

課題曲M10『MARIA』が先行して。

## ⑬ 開店前のお店（Bステ・楽屋） 日替わり

課題曲の練習（歌と踊り）を一人黙々とするメイ。

メイ あーもう駄目！ あと三日しかないち、こんなんじや話にならん！

自分に活を入れながら、練習を続ける。

楽屋（ホンミ、リラ、スルト）から声が聞こえてくる。

ホンミの声 音響の、パドックさんが、偶然聞いたんだって。

リラの声 何を？

ホンミの声 マスターとプロデューサーが、事務所で話してて。

スルトの声 それで？

ホンミの声 プロデューサーは、エリーさんを選んだんだけど、エリーさんはジガイ

したんだって〜。

ピクツとしたメイ、踊りをやめて楽屋に聞きに行く。

リラの声 自害？

スルトの声 それ、辞退だろ。

ホンミの声 それ〜。でえ、ジタイって何？

リラの声 マジ？ エリーさん、メイさんに譲ったってこと？

楽屋のカーテンを開けるメイ。

スルト メイ！

メイ なん、それ！？ どういうことか、聞かせて！

リラ (ヤバ) え、いやあたしはよく分からない…。

メイ 誰が聞いたん？ いま喋ってたの誰！？

三人、顔を見合わせる。

ホンミ あたしじゃないです〜。

メイ 嘘つけ！ ホンミ、あんたの喋り、バレバレやし！

ホンミ …(小声) 聞いた話だから、分かりません…。

メイ 声ちっさ！！ なんて！？

ホンミ 聞いた話だから分かりません！

スルト (ボソツと) 普通に喋れるじゃん。

ホンミ もー、エリーさんに〜、直接聞けばいいじゃないですか〜。

リラ そうですよ。うちらに怒るのは筋違いですって。

スルト お疲れ！

メイ あ、おい！

三人、慌てて逃げていく。

取り残されるメイ。

メイ (独り言) ……なんなん？

客席に座るメイは考えこむ。

『theme of 28』を口ずかす。

メイの声 譲った？

なぜ？

あたしに同情したから？

あたしがエリーよりも才能がない？

憐れに思ってる？（前文と次文が被りながら）

ママのことがあったから？

歌うのをやめるメイ。

メイ ……（怒りが込み上げて）なんか腹立ってきた！

エリー お疲れ様です。

メイ エリーっ！

エリー メイ—

メイ どういうことなん！？ あんたが選ばれたのに、あたしに譲ったって！？

エリー それ、どこで！？……あ…。

メイ 本当なんね。

エリー ……。

メイ ……なんで？ なんでそんなことまでしてくれるん？

エリー ……。

メイ あー、あたしがアホで才能ないから、かわいそうに思ったんやね。

エリー 違う！

メイ あんたって昔からそうやん。なーんか、いっつもあたしのフォローをしたがるんよ。

エリー メイ、聞いて—

メイ そんなんされたら、こっちはどう思うと？

エリー そうじゃなくて—

メイ 惨めになるだけやし！

エリー 違うの！ あたしは……！！

メイ あたしは、なん？

エリー あたしは……。

メイ 上から見たいだけやろ！！

メイは走って飛び出す。

エリー—

メイ！ 待って！ メイっ！！

メイは去って行った。

エリー ……違う、違う…。

マスターが楽屋から出てくる。

マスター エリー？

エリー 私、『Twenty-Fight』を辞めます。

マスター ……。

エリー 突然すみません。ハルと結婚してダンスも辞めます。私、新しい夢を見つけたんです。

マスター ……そうか。

エリー 今まで、お世話になりました。本当にありがとうございました。

深々と頭を下げるエリー。

マスター うん。

エリー メイのこと、よろしくお願いします。

マスター (頷いて) 3日後、君のラストショーをやろう。それが、店からの結婚祝いだ。

エリー ありがとうございます。

エリーの肩を抱くマスター。

SE大歓声と司会者のアナウンスが先行して

#### ⑭ オーディション会場の楽屋 (Bステ・楽屋)

司会の声

さあ、さっそく今年の『ワールドアイドルオーディション』準決勝まで残った幸運の持ち主たちを紹介しよう。皆さん、盛大な拍手と歓声を。エントリーナンバー1、「ちよいデブコメディアン・マリー！」(歓声)。エントリーナンバー2、「マーメイドバレリーナ・ターエ！」(歓声)。エントリーナンバー3、「エキセントリックアクトレス・カオリ！」(歓声)。エントリーナンバー4、「ミスポニーテール・エリカ！」(歓声)。エントリーナンバー5、「ネガティブ魔女っこ・マキ！」(歓声)。エントリーナンバー6、「ロックン少女・マユ！」(歓声)。そしてそして最後はエントリーナンバー7「不機嫌エンジェル・メイ！」(歓声)。

楽屋で着替えたメイは、出てきてメイクを始める。

司会の声

さあ、この7人が、同じ曲をパフォーマンスして、皆さんの投票で3人の決勝進出者を決めるわけだ。皆の目を引くのも、ミスして嫌われるのも、彼女たち次第ってこと。

爪を噛んで緊張しているメイ。大きく深呼吸をする。

SE楽屋をノックする音。

メイ

はい？

ハルが入ってくる。

メイ

？

俺はハルって言います。とても大事な人から手紙を預かってきました。

手紙を渡すハル。

メイ

大事な人？

ハル

僕と同じぐらい、あなたにとっても大事な人ですよ。それじゃ、頑張ってください。

会釈して去っていくハル。慌てて手紙を開封するメイ。

メイ

(読んで) …メイ、緊張してる？いつもの爪を噛む癖、出てない？

途中、Aステにエリーが現れて語り出す。

エリー

ちようど私のラストショーが始まるころかな。本当のこと書くね。メイ、あなたに譲ったんじゃない、私は無理になったの。新しい命を授かったから。だから全部、あなたに託したの。これからは、メイが私の新しい夢になる。この手紙を届けてくれた彼、ハルと、このお腹の子とずっと応援してる。メイの実力なら大丈夫。それは誰より私が一番知っているよ。

後ろでポーズを決める仲間たち。

⑮ ラストショー（Aステ・楽屋）

エリーが語り終わると、深々と一礼。

SE 歓声

ダンサーたちが楽屋に引き上げ、「テレビつける！」など  
メイの番組を見る。ステージに残っているエリー。

⑯ オーディションのステージ（Bステ・楽屋）

SE 大歓声

司会の声 さあ、最後の出場者です。メアリー・チツコーネ！

SE 歓声

スタンドマイクを持ったメイが出てくる。課題曲M11『MARIA』

（M10と同じ）が流れるが、歌わない。

SE ざわざわ

曲がとまる。

司会の声 どうしましたメイ？ 課題曲を歌わないと失格になりますよ。

メイ エリー、見てる！？

SE ざわざわ

メイ （満面の笑み）ねえ。あんたのラストステージに、あたしがいなくてどうする  
ん？

『theme of 28』をアカペラで歌いだすメイ。

涙がこぼれる 明日がみえなくて

誰もがあきらめているけど 人は繰り返し進むの

雨は土に還り やがて この街にも降り注ぐ

あなたがわたしに教えてくれた

昨日は明日のためにあるってこと、痛む日々の中で、ああ  
I would like to sing for you. And thank you from now on.

すると、ちわつきはなくなり、メイの歌だけが会場に響く。

Aステのエリー、曲に合わせて踊りだす。

やがて、照明がゆるやかに落ちていく。

暗転

MEIN 『I'm gonna show you who i am』がかかり、ラストショーが  
はじまる。

ハットを外すまで、あなたは気づかないでください

You will not recognize me until the hat is taken.

赤いヒールを鳴らしたら、ショータイムの始まり

The red heel makes a sound. And the show time starts.

舞のちのこステージを舞っての

I'm dancing like a butterfly.

スティッキを振った瞬間から、まるで魔法がかかったみたいに

特別なモノを見せようぞい

Swinging a stick. I'm gonna show you

Something special like a magic.

誰も知らない、私の本当の姿を見せよう

I'm gonna show you who i am, The person no one knows.

私の事をみんな知っていた、あの人もみんな見ている

Look at me I will get back at you guys.

誰も知らない、私の本当の姿を見せよう

I'm gonna show you who i am, The person no one knows.

みんな釘付けにしてあげる

Catch your eyes and won't let them go.

※繰り返し

あなたの知らないうち世界を作ってしまった

I will make the world, you've never seen before.

お金なんでもなんでも、名も、金も、なんでも

I don't need money or fame

ただ本当の私を見て欲しいだけ

I want you to see who I really am

瞬きもなごも最後もどっぴかり見たい

Do not close your eyes, Look until the end.

誰も知らないうち、私の本当の姿を見せちゃうかも

I'm gonna show you who i am, The person no one knows.

私の事をめっちゃ好きだった、あの人も1人の人を見ようね

Look at me I will get back at you guys.

誰も知らないうち、私の本当の姿を見せちゃうかも

I'm gonna show you who i am, The person no one knows.

ちんちん釘を打ってしまおう

Catch your eyes and won't let them go.

誰も知らないうち、私の本当の姿を見せちゃうかも

I'm gonna show you who i am, The person no one knows.

薄暗いから時々見えない、赤い唇

The lips sometime show in the dark.

誰も知らないうち、私の本当の姿を見せちゃうかも

I'm gonna show you who i am, The person no one knows.

きっとあなたは動けなくなるとして

You won't be able to move.

その後、カーテンコール

End.